



## 第3回佐賀市部活動地域展開会議を開催しました

- 日時 令和6年2月16日(金) 10:00~12:00
- 場所 佐賀市役所大財別館
- 委員等 渡瀬浩介座長、代田昭久アドバイザー、学識経験者、中学校長、市中体連、保護者代表、地域スポーツ関係団体、文化芸術関係団体、県教委(オブザーバー)



前回会議で提示した改革の3つの方向性のうち、「学校部活動としての活動時間・活動内容の見直し」を中心に議論しました。事務局から「部活動ガイドライン」の見直し案を提示し、委員から意見をいただきました。引き続き、子どもたちや現場の意見を反映しながら、“学校部活動の適正化”と“地域の受け皿づくり”に向けて検討を進めていきます。

### 地域展開でめざす姿

子どもが多様な選択肢の中から**主体的に活動量や活動フィールドを決めて参加**できる、**持続可能な活動環境**をつくる。

- 子ども 自分で選ぶ・決める
- 学校 指導したい人を中核に
- 地域 する機会をつくる・支える

## 《方向性1》学校部活動としての活動量・活動内容の見直し

### (1) 活動量の“適正化”

現行のガイドライン (H30策定)	見直し (案)
週当たりの総活動時間は <b>11時間程度</b> 平日：少なくとも1日休養日、長くとも2時間程度 休日：少なくとも1日休養日、長くとも3時間程度	週当たりの総活動時間を <b>8時間程度</b> までとする。 合同部活動など休業日に活動する必要がある場合を念頭に総活動時間のみを設定し、1日当たりの時間数は部活動に委ねる

※適用時期などは今後検討する予定です。

### 根拠1 中学生は授業以外の活動量が多い (中学生アンケート R5.10実施)

- ◆部活動と習い事をしている生徒は **週19h超**、年間**960h**の活動量 (授業時数並み)

### 根拠2 活動量が多い生徒の部活動満足度は低い (中学生アンケートのクロス分析)

- ◆平日の活動量が **5日**又は**2時間超**の生徒は「多い」と感じ、活動満足度が低下



クロス集計結果

### 根拠3 民間クラブ (トップレベル) の活動量は決して多くない

- ◆バレーナースU15・・・ 月・水・金の週3回・2時間 (19:30~21:30)  
土日は、大会以外はいずれか1日のみ・2時間 →**週8時間**
- ◆アスリートリンク・・・ 月・水・金の週3回・2時間 (17:30~19:30)  
土日は、大会以外は練習なし →**週6時間**

### 《委員から》

- ・疲労回復、ケガ防止、バーンアウト防止の観点からも、総量の見直しには賛成。
- ・勤務時間内で部活動が収まるように、並行して各学校で教育課程編成の工夫を進める必要がある。
- ・競技特性を踏まえれば、年間の総活動時間の中で顧問が弾力的に運用できるような手法もあるのでは。

### 《座長・アドバイザーから》

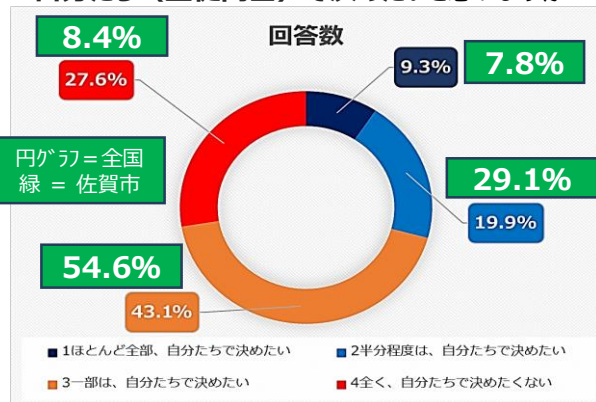
- ・様々な活動形態を想定して、日数ではなく時間で制限する考え方は理にかなっている。
- ・練習量過多によるリスクとして、ケガに加え、脳の発達への影響もあることが明らかになっている。
- ・佐賀市少年スポーツ指導者教本でも、多面的な視点から質と量の問題を整理しており、参考にしてほしい。

## (2) 子ども主体の自主的な活動への転換

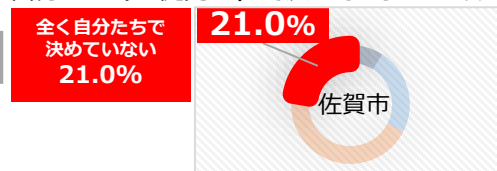
子ども自身の自己決定の機会を意図的に仕組み、実践を促すことで、主体性を育む。

根拠 「主体的に取り組みたい」「自分たちで考えて活動したい」という生徒は多い

Q：練習時間や内容、試合のメンバーなど部活動において自分たち（生徒同士）で決めたいと思いますか？



Q：現在、練習の時間や内容、試合のメンバーなど自分たち（生徒同士）で決めていることはありますか？



現在は「自分たちで全く決めていない」と回答した子ども（全体の21.0%）でも…

90%以上の子どもが、より主体的に取り組みたいと考えている

代田アドバイザー提案資料（中学生アンケート分析）から

## (3) 顧問の関わり方の見直し

複数顧問制や輪番指導制への転換を進め、部活動において顧問が担う役割を明確化

(例) グラウンドで活動する複数の部活動を、専門にかかわらず複数人で輪番指導（見守り）する。

## (4) 合同部活動の設置促進

外部指導者や学生コーチの活用促進を図り、持続可能で質の高い活動機会や子どもの選択肢確保をめざす。

《委員から》

- ・最初から生徒に任せるのではなく、段階的に主体性を育む必要があると思う。そのためには指導者の量と質の確保が重要である。

《アドバイザーから》

- ・部活動の量（時間）と質（主体性）の一体的な転換を進める視点が重要。
- ・子どもたちのニーズは多様であり、練習内容や日数等、子どもたちと一緒に考える場をもつことも有効ではないか。



代田アドバイザー提案資料

## 《方向性2》多様なクラブ・スクール活動への生徒参加の円滑化

- ・市スポーツ振興課と市スポーツ協会が協力し、部活動以外の活動フィールド（クラブ・スクール、体験イベント情報）を一覧化し、情報提供する準備を進めていきます。（受け皿の掘り起こし・拡充）

## 《方向性3》地域型クラブの立ち上げ・運営に対する支援

- ・委員から、諸富地区における団体立ち上げの状況と課題（学校側とのコンセプト共有、法人化の必要性や保険制度など）を報告していただきました。
- ・今後、地域型クラブが学校施設を利用する場合のルールづくり等の検討を進めます。

本年度の実証実験（3事業5部活）では、地域指導者と部活動との連携方法や兼職兼業の在り方、費用負担などについて検証しました。検証結果や参加者アンケートをまとめています。



モデル事業報告

令和6年度も、実証実験や部活動地域展開会議での議論を引き続き深めていく予定です。皆様からご意見をいただきながら、より良い地域展開の実現に向けて検討を進めていきたいと考えていますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



今後も部活動の地域展開について  
随時、情報発信していきます。

詳しくは佐賀市HPをご覧ください。→→



【発行・お問い合わせ】  
佐賀市教育委員会 教育総務課  
担当：志津田・手島・野元・岡  
電話：0952-40-7352  
E-mail：kyoiku@city.saga.lg.jp